

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

大局的な立場に立ち全般を見通す 大橋 洋治 (ANAホールディングス相談役)

1. 全日空を立て直す中で、私が改めて思ったのが、山田方谷という人の志の高さでした。ご存じのように京都や江戸での遊学を終えた方谷は、備中松山藩に戻った後、藩校有終館の学頭(校長)、さらに藩立・板倉勝職の跡継ぎである板倉勝静の教育係になります。そして勝静が藩主の座に就くと、元締役兼吟味役として様々な財政改革に取り組むこととなります。方谷の改革は「上下節約」「負債整理」「藩札刷新」「産業振興」などの言葉に言われますが、藩内の抵抗勢力に屈することなく改革を成功させたのは、その志をとことん貫き通したからだと思います。
2. 方谷の志を示す言葉に「至誠惻怛」があります。誠の心を慈しみ、憐れみの心を持って物事にぶつかっていったら苦しむことはない。困っている人がいたらその人の立場になって考えるんだ、と。藩の人々を育み幸せにするという思いがこもった「士民撫育」という言葉とともに、方谷の大切な指針であったような気がします。
3. 私が経営改革に当たっている時に励みになった方谷の言葉が二つあります。一つは、「義を明らかにして利を計らず」。儲けの前に安全安心を最優先に考えなさいということ。もう一つは「それ善く天下の事を制する者は、事の外に立ち、事の内に屈せず」。何か事を行うに当たっては、大局的な立場に立って全般の見通しをつけ、目先の細かいことにとらわれてはいけないという意味の言葉です。

(参考:「致知」2017年10月号)

経営者のための危機管理

一流企業と勘違い(大企業病)したリコー

1. リコーが苦しみ始めている。直販体制を敷き、営業人員を強化しながら規模拡大に邁進してきた。しかし、市場が停滞すると、強みの直販部隊の人件費が重くのしかかった。現路線を築いたのは、1983年に社長に就任した浜田広だ。1983年に5400億円だった売上高は、1990年に1兆円を超えている。1996年に桜井正光が社長を引き継ぐと海外販社の買収に乗り出す。グローバル化に舵を切り、財界活動にも積極的にかかわる。
2. 2006年に移転した銀座本社には役員専用エレベーターが設けられ、社長室にはシャワールームが設置された。この頃から社員が一流企業と勘違いし、大企業病に陥った。2006年には売上高は2兆円の大台に乗ったが、社内から疑問の声も上がり始めた。「浜田さんは毎月のように販社に顔を出していたが、桜井さんはめったに現場に来なかった」という。はたしてリコーは復活できるのか。

(参考:「週刊東洋経済」:2017年8月5日号)

経営者のための理念・哲学

公智が最も大切

清家 篤(慶応義塾学事顧問・前塾長)

1. 「文明論之概略」で福沢諭吉は、あらゆる事柄を相対的にとらえるべきだと強調しています。そして徳と智をさらに私徳(心の内側の徳)、私智(物事を理解する力)、公德(対社会的な徳)、公智(物事の軽重大小を判断して優先順位をつける判断力)の4つに分け、そのうち最も大切なものは公智であると説いています。
2. 相対的により大切なものは何か。あちらを立てればこちらが立たずというトレードオフの関係にあるもののうちどちらを優先するのか。若いころから何度も読んできたこの本の中で、公智を働かせ、より大切なものを選び取っていくことの重要性を説いたこの部分こそ、福沢の真骨頂だと思っていました。

(参考:「日経ビジネス」2017年8月7・14日号)

古典に学ぶ

算盤は論語によってできている

「今の道徳に依って最も重なるものというべきは、孔子のことについて門人たちの書いた論語という書物がある。これは誰でも大抵読むということは知っているが、この論語というものを、算盤というものがある。これははなはだ不釣合であるけれども、私は不断にこの算盤は論語によってできている。論語はまた算盤によって本当の富が活動されるものである。ゆえに論語と算盤は甚だ遠くて甚だ近いものであると終論しておるのである」

(参考:渋沢栄一「論語と算盤」:図書刊行会)